

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 17

(夏号：5)

2004. 7. 1

A N C : News Letter



「フシノハアワブキ」 奄美フォレストポリス 6月撮影

早めにやって来た台風が通り過ぎてからまもなく梅雨があけました。梅雨あけを待ちかねていたかのように、厳しい暑さがやってきました。いよいよ太陽の光がサンサンとふりそそぐ夏の到来です。

梅雨には近くの山や山頂へと続く林道沿いで、雨の恵みをうけて満開に咲いていた「フシノハアワブキ」の白い花が目を引いていましたが、今は薄緑色へと変わり周辺の緑にとけこんでしまいました。

この時期、センター周辺では近くの山から、ジー・ジーと鳴くセミ（リュウキュウアブラゼミ）の音が盛んに聞こえてきます。また、前の広場では強い日差しの中で芳香を漂わせるハマユウの花が咲いています。

奄美の夏はやはり海！海水浴へ出かけなくても、目の前に広がる「エメラルドグリーン」の蒼い海を眺めているだけで気分が壮快になれる季節です。

お知らせ

奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会共催 の夏の行事のご案内

☆クラフト教室「リサイクル紙飛行機を飛ばそう」

日 時：平成16年7月23日（金） 13:00～16:30

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

- ・牛乳パックを使って紙飛行機を作ってみましょう
（牛乳パックがご家庭にありましたらご持参ください。）

☆自然観察会「マングローブどろんこ探検隊」

日 時：平成16年7月27日（火） 13:00～16:30

場 所：マングローブパーク（住用村）

講 師：森田豊範先生

- ・マングローブ林の中を歩いて生き物の観察をしましょう
（ビーチサンダル等を準備してください）

☆自然観察会「夜の森でホタルを探そう」

日 時：平成16年8月7日 18:30～20:30

場 所：奄美自然観察の森（龍郷町）

講 師：作田裕恒先生

- ・平地ではあまり見られないホタルの観察の他に夜の生き物の観察をします。
- ・懐中電灯を準備してください。

☆クラフト教室「ソテツのおもちゃを作ろう」

日 時：平成16年8月18（水） 13:00～16:30

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

- ・ソテツの実に絵を描いたり葉っぱを使ってオリジナルの作品を作ってみましょう
- ・参加者全員でソテツの葉を集めてから始めます。（実は準備してあります）

※自然観察会・クラフト教室への申し込み先

- ・奄美野生生物保護センター TEL0997-55-8620
- ・定員になりしだい締め切らせていただきます。
- ・保護者同伴でご参加ください。
- ・観察会時の飲みもの等は各自で準備してください。

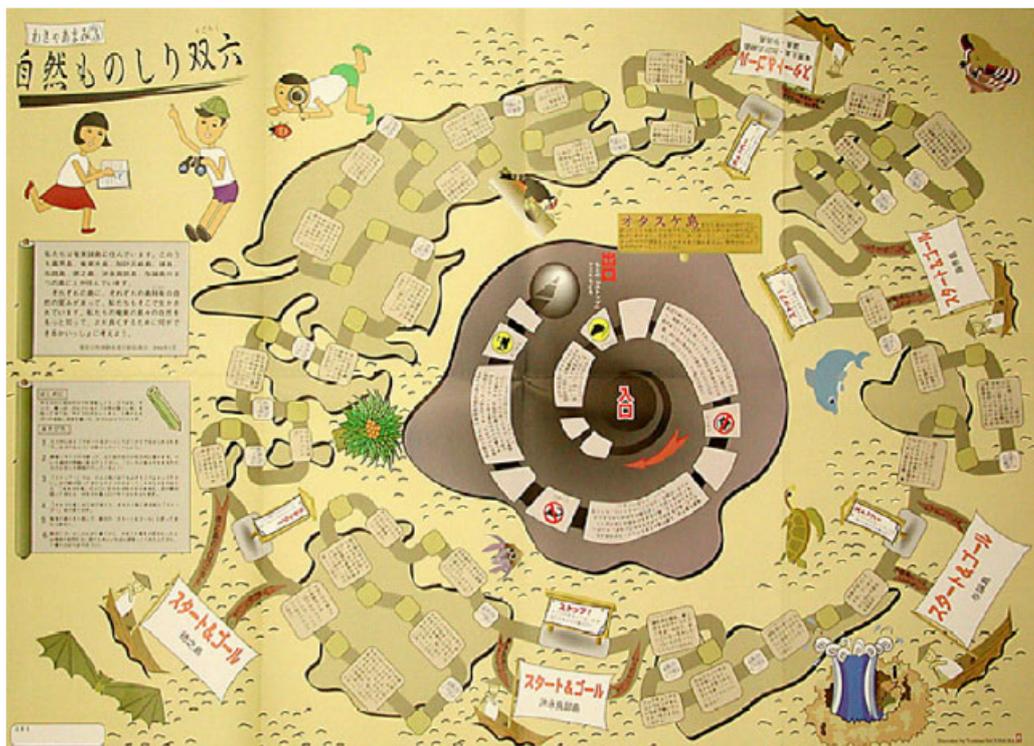
「自然ものしり双六」の紹介

平成15年度協議会事業でわきゃあまみ③「自然ものしり双六」を小学校高学年を対象に制作しました。

奄美の島ごとに「スタート」地点があります。奄美の生きものを勉強しながら、群島を一周したらゴールです。クイズの答えは裏面に記載されてます。

各市町村の教育委員会を通して小学校への配布をお願いしましたので、総合学習の時間などにもご活用ください。

表 面



裏 面

新聞記事「大島新聞」



協議会活動報告

企画展：「リュウキュウアユと仲間たち」

日時：平成16年4月29日(木)～5月31日(月)

場所：奄美野生生物保護センター(企画展示室)

自然観察会：「春の川の観察会」

日時・場所：平成16年4月29日(木)13:00～15:00 ・大和川

講師：米沢俊彦先生((財)鹿児島県環境技術協会)

4月29日(木)～5月31日(月)までの間、奄美野生生物保護センター開館4周年記念行事として、企画展「リュウキュウアユと仲間たち」を開催しました。

企画展初日の4月29日(木)には「春の川の観察会」も行いました。観察会の前にセンターで講師の米沢さんに淡水魚について教えてもらってから出かけました。川へ着くと米沢さんと子供達と一緒に中へ入って川の生きもの観察を始めました。久しぶりの川遊びの子供さんもいたようで、貝や魚を見つけると「見つけた!」と喜びはしゃいで、網で捕らえて名前を教えてもらっていました。時々、石についた海苔でころびそうになりながらも、川の生き物を探し続けていました。

川には、ヨシノボリ、ミゾレヌマエビ、タイワンイソヒラモドキ、スグカワニナ(絶滅危惧種)等が生息していました。

子供達は、「普段捕まえたことのある生き物の生態を知ることが出来てよかった」「奄美に住んでいたけどこんなにたくさんの生き物がいるとは思わなかった」と話していました。

企画展をご覧になった方からは「リュウキュウアユの生息河川が少ないのを知り驚いています。今後は生息激減の保全策を考えないといけないと思う」と言った感想が寄せられていました。

企画展の様子



観察会の様子



新聞記事

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

『夏の自然日記：台風と生きもの』

1ヶ月半近く続いた梅雨も明け、奄美に本格的な夏がやってきました。このころの山に行くと、セミの声が響き渡り、チョウやトンボが飛び回って、さながら虫が主役になったような感じですが、もちろん鳥達もいるのですが、暑い昼間よりは涼しい早朝や夕方にかけてさえずりがよく聞こえてきます。海岸では夏鳥のコアジサシなどが渡ってきていて、ちょうど子育てのシーズンになっています。

今年の梅雨は相次いで2つの台風(4、6号)が奄美に接近してくるという珍しいことが起きました。台風が来ると私たちの生活に様々な影響を与えますが、生きもの世界ではどんなことが起きているのでしょうか？

台風による強風で木が倒れたりすれば、そこをねぐらや巣に使っていた生きものは住みかを失ってしまいます。また、砂浜や海岸で子育てをするアジサシたちは、風や高波の影響をまともに受けてしまい、営巣地が全滅してしまうこともあります。

台風は主に北緯20度付近の地域で発生し、日本まで北上してきます。風速30mを超える風の中では、さすがの鳥も上手く飛ぶことができず、台風巻き込まれる形で北上してしまうことがあります。すると、普段あまり見られないような南の鳥達が、奄美に迷ってきってしまうことがよくあります。これを“台風迷行”といいます。バードウォッチャーの中には台風のコースを見て、台風一過の青空の下で珍しい鳥を探すのを楽しみにしている人もいます。先日の台風6号の時には、奄美では珍しいハシブトアジサシ(左上写真の一番右)が観察されたほか、本来なら八重山地方で営巣をするセグロアジサシの幼鳥(左下写真)が保護されました。また、台風迷行は鳥に限らず、チョウの仲間でも見られるそうです。



住みかや巣を破壊されたり、風によって流されたりと生きものにとってもあまり良いことのない台風ですが、大切な役目もあります。台風による強い波は海を激しくかき混ぜます。すると、海

底の冷たい海水が海面まで持ち上げられるので、海水温が上がりすぎるのを防ぐようです。海水温があまり上がらないと、サンゴの白化現象が起きにくいという説があります。これはサンゴに共生している藻の仲間(褐虫藻)が、高温の海水を好まないためだと言われています(右写真;リーフエッジで碎ける台風後の高波)。



今年は台風の当たり年と言われています。センターのスタッフの家ではカマキリの卵が例年より低い位置にあったり、ハチの巣が低い場所に作られたという話も聞きます。天気予報を見られないのにどうやって台風を感じるのか、台風と長く付き合ってきた奄美の生き物たちは、台風と共存していく術を知っているようです。

(セ

ンター 中村)

情報マップ 地図

夏にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥・日本の両生爬虫類

「クロツラヘラサギ」 コウノトリ目 トキ科 迷鳥

体全体が白く、くちばしが平たく黒色のしゃもじ形をしている。ヘラサギに似ているが、目先の黒色の部分が幅が広くて、くちばしと目がつながっているように見える。若鳥は翼の先端が黒く、くちばしが暗灰紅色で冠羽が短い。干潟や水田で水の中にくちばしを入れて、時計の振り子のように左右に大きく降りながら、泥の中の小動物などを食べている。奄美へはごく稀な冬鳥または迷鳥として数回渡来している。

鳴き声：ウブーウブー

記録時期：10月～12月～6月

確認記録：奄美大島・徳之島



「オットンガエル」 カエル目 アカガエル科

がっしりとした体形で茶褐色のヒキガエルに似た大型のカエル。頭幅、体幅が広く、太短い四肢をもつ。通常のカエルでは消失している一番内側の指が短く残っている。この指は先端がナイフのように鋭くなっており、捕らえると刺されることがある。背面には大小の隆起があり、背側線上に粒状突起が並んでいる。腹面は白色から薄い灰色で、薄い模様がある。繁殖期に雄はのどを大きくふくらませて鳴き交わす。繁殖期は4月～8月。湿地や溪流の浅瀬、林道の水たまりなどに30cm前後の丸くて浅い穴を掘って産卵する。この巣のプールの中にゼリー質に包まれた卵を1300個前後、シート状に産み出す。オタマジャクシの一部は越冬して翌年変態する。

大きさ：90～140mm（成体）

鳴き声：グググググフォン

分布：奄美大島、加計呂麻島



夏にみられる野生生物

※参考文献：山溪ハンディ図鑑4

「フシノハアワブキ」（別名リュウキュウアワブキ） アワブキ科

分布：本州（山口県）・九州（対馬）・奄美大島以南

樹形：常緑高木。高さ20mになる。関東地方などに植栽されているものは落葉する。

樹皮：灰黒色でなめらか。浅い縦の溝がある。

枝：灰黒色。

葉：互生。長さ12～20cmの奇数羽状複葉で、枝先に集まってつく。

花：4～6月、枝先に大きな円錐花序を直立し、淡黄白色の小さな花を密につける。
花は直径4mmほど。

果実：核果。直径約5mmのほぼ球形で、8～9月に暗赤色に熟す。核は暗褐色で直径4mmほど、表面には凹凸がある。種子は1個。



平成16年度協議会総会の報告

平成16年度の協議会総会が5月27日（木）に奄美会館で開催されました。

- 議題
- 1,平成15年度活動経過報告について
 - 2,平成15年度収支決算の承認について
 - 3,監査報告
 - 4,平成16年度活動計画（案）について
 - 5,平成16年度収支予算（案）について
 - 6,役員改正について
 - 7,その他

*平成16年度の活動計画・平成16年度の収支予算が承認されました。

*新役員のみなさんです。宜しくお願い致します。

副会長 笠利町・伊仙町

監事 住用村・与論町

後 記

平成16年度協議会総会で役員改選が行われました。4年間役員を務められた。瀬戸内町，知名町，龍郷町，天城町のみなさんお世話になりました。これからも宜しくお願いします。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画財政課
TEL：0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL：0997-55-8620
FAX：0997-55-8621

